

会報

平成17年1月15日

てんりゅう



謹賀新年

平成十七年度は天竜建設
業協会南設楽の大変な年
宮田五市村の汚染市との大
合併に伴う県の合併協議会
土本、北遠東部、長野、新潟
県、長野への組織変更先行き
見定め、一歩前進と行動と
一日元
初天竜建設業協会
会長 秋山 鋭介

アカヤシオの花
春を待つ

新年号

4月下旬からアカヤシオツツジ、5月中旬にはシロヤシオツツジが咲き乱れます。国の天然記念物にも指定されており、霧に浮かぶヤシオツツジは春野町の顔ともいえるべきものです。

会報てんりゅう 第81号

(社)天竜建設業協会 天竜市二俣町鹿島491-5 ☎(0539)26-1562
編集・発行 広報委員会 題字 秋山鋭介 FAX(0539)25-6468
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.tenkenkyo.net/

すを拓く への期待

年頭ごあいさつ

全国でも例の見ない市町村合併が動き出しています。十二市町村という数と、広さを持つ新市が七月一日に発足スタート、ここ北遠管内のすべて一市四町村が参加する「新浜松市」は、さらに二年後には政令指定都市を目指します。新市での位置付けは「森林活用・保全ゾーン」で、自然を活かした環境豊かな街として生まれ変わります。市町村長の年頭の挨拶を紹介します。



天竜市長 中谷良作

新年あけましておめでとうござい
ます。
皆様には、健やかに新春をお迎え
のことと、謹んでお喜び申し上げます。

昨年は、日本列島に10回に及ぶ台風の影響があり、広い範囲に及んで甚大な被害を受けました。加えて、10月の新潟県中越地方を襲った震度7の地震によって受けた被害は、私どもの想像を絶するものがあります。それぞれの現地では、懸命な救援活動と復旧作業が続いている状況です。テレビ報道などで見えるにつけ、災害の過酷さと人同士の脆さを感じました。災害によるダメージは、財産だけでなく肉体的にも精神的にも影響

響を及ぼすものであり、災害を被った皆様方には、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

明るい話題は、アテネオリンピックでの日本選手の大活躍でした。メダルを獲得した選手はもとより、それぞれの選手が全力を出し切る姿にすがすがしさをおぼえ、そのひたむきな精神に感動したのは私だけではないと思います。我々が生きていく糧として何か力を与えてくれたように思います。

本市からも初めてのオリンピック選手が誕生しました。ボート競技に

環境と共生あるクラスター型都市へ

参加された横山町出身の内山佳保里さんです。内山さんは二俣高校で競技生活を始め、シドニーオリンピックにも候補選手になる活躍を見せましたが、惜しくも代表選手の座を手に入れることはできませんでした。しかしこの悔しさをバネとして、さらに精進を重ね、アテネの日本代表を勝ち取りました。アテネでは女子軽量級ダブルスカルで世界の強豪に立ち向かい、13位の結果を残され、大会終了後の本市での報告会においては、さらに次の北京オリンピックを目指す力強い抱負を語ってくれました。

さて、国の三位一体改革でありましたが、昨年11月、国の行財政改革において、国庫補助金改革の概要が示されました。国と地方六団体が、今だかつてない議論を重ねた結果、まとめ上げられたものですが、税源の移譲とともに、地方分権にさらに拍

車がかかり、大きな波として押し寄せてきます。

いよいよ本年7月1日には、県西部12市町村が合併し、本市を含めた新しい浜松市が誕生します。政令指定都市を目指すこの合併は、国に頼らず市の判断と責任により政策を立て、地域が自立していくための第一歩であります。そのためには、地域の創意工夫と、安定した行政サービスの行っていくための、行政能力の向上を図る必要があります。そのためにも私は、地域の特性を活かした皆さんが住みやすさを実感できる「環境と共生するクラスター型都市」の実現を目指し、最大限の努力をしていく覚悟です。

新市への幹線道路整備を

春野町長 伊藤晋一郎



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、世界ではイラク戦争、国内では台風の影響、新潟県中越地震の災害、国・地方財政の三位一体改革で補助金削減案が打ち出された年でもありました。

さて、浜松市を中心とする天竜川・浜名湖地域合併協定書の調印式が昨年12月10日に行われ、本年7月1日、12市町村の合併が実現します。

新市の将来像は、豊かで美しい自

北遠のあ 新浜松市

北遠1市4町村長



魅力ある定住環境の 形成を目指して

龍山村長 内山 勝



謹んで新年のお慶びを申し上げます。
皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
1年前に私は、いろいろな場で平成16年は「激変・激動の年になるで

しょう。」と申し上げてまいりました。
顧みますれば、地方公共団体においては重大事である、国庫補助金削減、税源移譲、地方交付税改革の三位一体の改革が進められるなかで、昨年は地方から国に対して自らが受ける補助金の削減案を提示し、国に論戦を挑んだという、地方と国との関係に劇的な変化がもたらされた年となりました。
さらに今年は、「地方に出来ることは、地方に任せる」という方向に

向かって、新しい第一歩を踏み出す年になるでまいしょう。
私たちの地域におきましても、天竜川・浜名湖地域12市町村の合併協議も概ね予定どおりに進み、年末に合併調印式を終え、各市町村の議会において、11の市町村を廃止し、浜松市へ編入するという決定がなされるという歴史を画する年となりました。
いよいよ今年は、天竜川・浜名湖地域の12市町村が合併し、「環境と共生するクラスター型政令指定都市」を目指した人口78万人、面積1,521平方キロメートルの大型都市が誕生することになります。
合併協議会の議論を通して策定された新市建設計画においては、「北遠地域は森林活用・保全ゾーンと位置づけ、水と緑に恵まれた自然環境や森林資源を活用した魅力ある定住環境の形成を進め、地域にふさわし

然環境と、経済・文化・社会活動が共生する都市づくりを推進し、水と緑と光の中で新しい産業と文化が育まれる世界都市「環境と共生するクラスター型都市」を目指すものであります。
道路整備につきましては、第二東名自動車道や三遠南信自動車道などの高規格幹線道路へのアクセス道路、新市の地域を結ぶ幹線道路の整備を推進します。
また、生活道路の整備を進めるとともに、歩道などのバリアフリー対策を推進します。そのほか、多様な交通機関の整備、効率的な土地利用の推進、中心市街地の整備、質の高い住環境の整備を進めていきます。
産業の集積を高めていく。」としており、地域発展にむけた様々な取り組みが始まるでしょう。
南北往來の大動脈である国道152号線につきましても、天竜市・龍山村間においては、ずいぶん改良工事が進んでまいりました。現在、西雲名地内において急峻な国道の路肩を近代的な工法により拡張する工事が進められていますが、日ごとに進捗していくのを目の当たりにして地域の建設業者の皆様技術の高さを大変頼もしく感じているところであります。
国内外の状況や地域の環境がまさに激動している中であって、貴協会におかれましても、これからの新しい時代に対応しつつ、さらに充実した活動がされていくことを考えています。
皆様の英知を結集して、貴協会がさらに発展されますことを祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。

新市は、静岡県に要望する事業、静岡県が実施を予定する事業について協働して計画的にまちづくりを推進していきます。
具体的事業としては、公共下水道事業、河川改修等整備事業、治山治水事業、国道整備事業、主要地方道整備事業、一般県道等整備事業などがあります。
▲市町村合併を絶好のチャンスととらえ、特に道路交通体系等の整備に重点を置き、産業・経済・文化都市である浜松市と袋井市を連結する国道362号の整備、国道152号バイパス、県道袋井春野線の整備に努めてまいります。
そして、先に起きた新潟県中越地震のような天災がいつ到来するかわかりませんので、治山治水・地すべり対策事業などにも力を入れてまいります。
建設産業を取り巻く環境は、国の構造改革や長引く不況に伴う建設投資の縮小など、非常に厳しいものがありますが、この局面を乗り越えるために、新たな事業開発へ挑戦する時期であると思います。
天竜建設業協会の一員である春野建設事業協同組合は、住宅関連事業や環境に配慮したコンクリート製品造り等取り組んでおられますが、今後につきましても土木事業はもとより、将来夢ある事業開発に取り組みでいたきたいと思っております。
今年は四年でありますので、事業開発に飛び舞い立ち、事業が成功することをお祈りいたすとともに、天竜建設業協会の益々の発展と工事の安全を祈念いたしまして、年頭の挨拶とします。

北遠のあすを拓く 新市への期待

環境と共生した都市形成

佐久間町長 小原侃之輔



新年明けましておめでとございます。

会員の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのことと、謹んでお喜び申し上げます。

昨年は異常なほどの数の台風が本土に上陸し、数々の風水害に見舞われましたが、それにも増して10月23日には、新潟県中越地方で震度7を記録する内陸型の大地震が発生し、想像を絶する被害には大変おどろくと同時に、自然災害の猛威の恐ろしさを誰もが感じたことと思います。

こうした中で、国道の崩落現場から2歳の男児が奇跡的に助け出された報道には、被災された人達に復興への勇気と力を与えてくれたことは勿論のこと、多くの国民に感動と生命の尊さを、改めて知らされた出来事ではなかったでしょうか。

ところで、昨年の秋の報道によりますと東海地震についても、その震源域を東海沖から「沖」をはずさなければならぬと、中越地震の経験を踏まえ、国の地震

予知連絡会での検討内容が発表されましたことは周知のことと思います。

北遠地域にとっても例外ではなく、今後地震をはじめ自然災害に対する危機管理体制を、官民一体となつて進めなければならぬと痛感した次第です。

「みさくぼ」を情報発信

水窪町長 天野勝郎



新年おめでとございます。

会員各位におかれましては、希望も新たに、新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、記念すべき協会創立五十周年を迎えましたこと重ねてお祝い申し上げます。

本年は、水窪町においても「平成の大合併」のうねりに揺られながら、市町村合併の時を迎えております。町として、これまで合併に関し多くの調査研究を

さて、今まさに行政は国、地方に関わらず、地方分権とか「三位一体」という改革で激動しております。

そうした中で、北遠5市町村は全国でも先駆的な行財政改革を進めると云う先陣を切つて、本年7月1日を以つて天竜川・浜名湖地域12市町村が合併し「新浜松市」となっていくことになりました。これまで協会の皆さんには住みよい郷土づくりや安全、安心の町づくりのため大変お世話になり本当にありがたうございました。

私は今回の合併は単に行財政の改革を進めると云うことだけではなく、政令市を目指す「新浜松市」が発展していく

進めるとともに、天竜川・浜名湖地域合併協議会における協議内容も含め、町民各位と考え、さまざまな形で話し合いの場を設けて参りました。

本年七月、私たちは、私たちのふるさと水窪の未来を考え、そしてよりよい方法としての選択肢の中から浜松市との合併を「決断」いたしました。

有史以来、多くの先輩諸氏が築かれてこられました「我がふるさと・水窪」の歴史、文化は合併後も継承していかねばならないと考えております。活気に満ちたふるさと、やすらぎの里を心に抱きつつ明日へのまちづくりに取り組んで行く所存であります。

未来を築く基盤づくりとして、国道「五」号線及び三遠南信自動車道の整備

ためには、天竜川の上流と下流である南北の都市と山村が「帯」となることが、環境と共生した都市を形成する上で、必ずや21世紀の時代に求められる都市ビジョンであると信じているからであります。

また、北遠地域も時代の変化と共にこれまで以上に変遷して行くでしょう、その度に変革を求められていくことと思ひます。

それらに耐えうるためにも、健全で強固な建設業協会として益々発展されることを祈願し、年頭のごあいさついたします。

を促進し、町内道路ネットワークの整備に力を注ぐと共に、現在実施しております、公共下水事業の推進に向けて努力して参りたいと思ひます。

また、本町の基幹産業である林業については、林道整備等の環境施策を推進し、生産・加工・流通体制の確立により、さらなる林業振興を目指していきたいと思っております。

この地には都会にはない、山や川の豊かな自然、見晴らしの良い景色、そして伝承等の自慢すべき資源が数多く存在しております。この貴重な資源は、新市として生まれ変わつても「みさくぼ」の存在を情報発信し、多くの人達によってその価値を認められることにより、一層輝きを増すものと考えます。本町の持つ豊富な自然の保全を図りつつ、人々が自然とふれあう場として有効活用を図りたいと思ひます。

安全で安心できる「ふるさと」づくりのため、今後とも建設業の皆様のお力添えをお願いするとともに強固な団結と絶え間ない技術の向上を目指し、地域の発展に寄与していただくことを期待して新年のご挨拶といたします。

天竜川・浜名湖地域 合併協議会の動き

(1) 合併までのスケジュール

平成16年12月10日	全ての協議を終了し、合併協定書を調印
平成16年12月 ～平成17年1月	各市町村議会への合併関連議案の提案・議決 【合併の決定】
12市町村議会での 合併議決終了後	県知事への届出
～平成17年3月	知事による国との協議、 県議会への提案・議決、 知事の合併決定
平成17年4月	知事から総務大臣への届出、総務省の告示
平成17年7月1日	新市の誕生
～平成18年3月	政令指定都市移行準備
～平成19年3月	閣議決定 政令交付
平成19年4月1日	政令指定都市の誕生

(2) 政令指定都市移行推進体制も整う

平成19年4月の政令指定都市移行実現に向けて、国及び県との協議を円滑に推進するとともに、内部体制の整備を図るため、平成16年11月政令指定都市移行推進本部を設置した。次の4部会で構成されることとなっており、事務局を担当している課長補佐等が当ることとなっている。

一、総括部会

国との政令都市移行について協議する。

二、事務移譲部会

県との事務移譲について協議するとともに、事務引継ぎを協議する。

三、区制部会

区役所等の組織、分掌事務、権限、職員数について協議する。

四、区役所等整備部会

区役所等の整備に関することや、開設準備に関することを協議する。

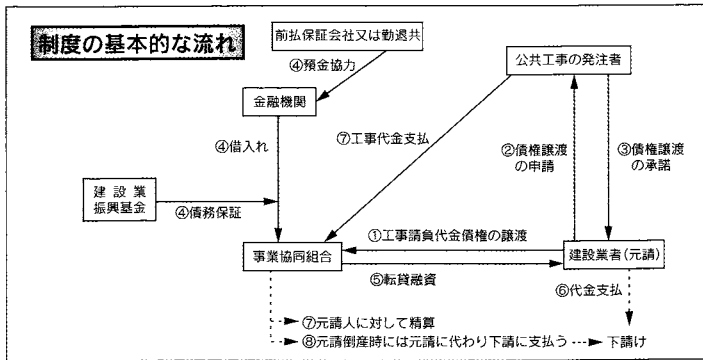
天竜地区建設事業協同組合

『下請セーフティネット』

転貸融資事業』スタート

天竜地区建設事業協同組合は、去る10月15日に臨時総会を開催して、『下請セーフティネット転貸融資事業』の実施の承認を受けました。

事務手続きを総て完了し、12月1日から国及び県工事について、活用できるようになりました。



県下では、清水・浜松建設事業協同組合に続いて、3番目のスタートとなります。

また、静岡市と浜松市が本融資制度の導入を認めておりますので、今後は、管内の市町村の発注する工事についても、本制度が適用されるよう働きかけをしていきます。

当制度を利用するメリットは、以下の通りですので、会員の皆様の活用をお待ちしています。

(1) 元請業者のメリット

○資金繰りの改善、経営力・施工力の強化

工事の途中段階で、元請業者が有する工事請負代金債権（未完成工事を含む）を現金化でき、実質的な出来高払いと同様な効果が期待できる。

○低利で安定的な資金調達

（財）建設業振興基金の債権保証と保証事業会社等による協力預託制度があるため、企業単独で借入を行うよりも、低利で安定的な資金調達が期待できる。

○経営事項審査評価の算出の際の借入金から控除

(2) 下請業者のメリット

○適正な下請代金支払いの確保

本制度は、実質的には請負代金債権の対価と考えられることから、経営事項審査の経営分析における有利子債月商倍率を算出する際の借入金の額から控除できることになっている。

(3) 発注者のメリット

○適正な施工の確保

本制度の活用は、建設業者の資金繰りの改善、経営力・施工力の強化に資することから、工事の適正な施工の確保に寄与します。

私が建設防の安全指導員となり、9年になります。各現場を廻り、パトロール終了後は、全員で、各現場の点検指導事項の確認と講評をしています。

指摘事項の多いところは、「足場の取付」「法面の浮石」「作業用通路（手すり、取り付け）」「標示板の設置」等です。事故を起こせば被災者はもとより、家族やその周囲の者までが、大きな損害を受けます。一生不自由な身体になることさえあるのです。安全パトロールの目的は現場の皆さんの「安全意識の向上」

森吉組(株)

吉田正一

『リレー安全パト』

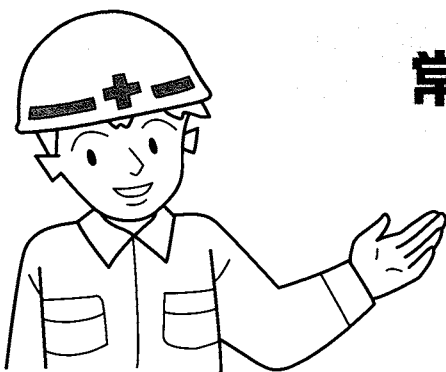


常日頃より安全施工

事項の改善と対策や処理”を確認します。

作業員一人一人が、安全に対する意識の高揚を図り、パトロールがあるから各作業場所を整理したり、見直すのではなく、常日頃より安全な施工が出来る作業場作りを目標に、日々努力していただけたらと思います。

今後皆様様の御協力をお願い致します。

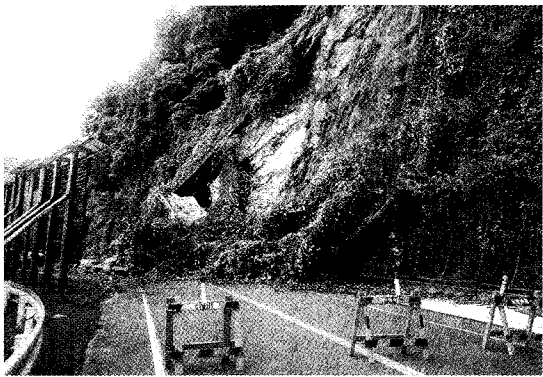


建設ギャラリー

ワイド版

私たちはこんな作業を
していました!!

〈施工者＝(株)石川組〉



9月6日午前2時 崩落発生!!

平田側から鹿島方面を見たところ。縦15m、幅25m約700m² (大型ダンプ140台分)の岩盤が崩落し道路を完全に封鎖した。岩の大きなものは、縦・横・厚さ、9m・4m・3mもあり、防護ネットを巻き込み風呂敷に包まれたような形になっていた。



法面にモルタルを吹付

作業中の落石による事故防止・安全保護のため、破碎した岩を撤去後、厚さ5cmのモルタルを吹付けた。法面上部から垂らした命綱にぶら下がっての作業。これによって防護柵作業の安全を確保した。

◆ご協力ありがとうございました

最後に路面を舗装し、安全標識、バリケード、赤色灯等を設置し、周囲を清掃し、再度全体の安全確認をしました。崩落から11日目にして片側通行ではありますが、無事通行止めの解除となりました。ご協力ありがとうございました。

台風と地震の影響と思われる天竜東栄線の法面崩壊現場は、静岡県天竜土木事務所と(社)天竜建設業協会とに交わされた「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づく災害復旧工事です。10日間の全面通行止めの間「何をやってんだ?」とか「いつから通れるんだ?」という疑問をもたれた方が多いと思いますが、安全を最優先に考え、最善を尽くして作業にあたっていました。ここに災害復旧の状況をレポートします。



出動し崩落岩盤破碎

崩落した岩石は非常に硬く大型ブレーカーという機械を使用し、運搬し易い大きさに小割りした。作業機械の振動による落石が3回程あり、地山の様子をうかがいながらヒヤヒヤものの作業の連続だった。



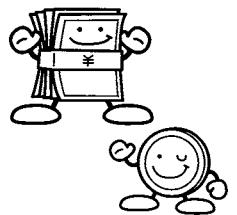
防護柵の設置をし完了

クレーン2台を使って、長さ10cmのH形鋼の建て込み(地上9m)間に直径20cmの丸太を設置、全長37mの落石防護柵設置の作業状況

天竜東栄線 (法面崩壊) 災害復旧工事

タンス預金は

おもちゃですか？



みなさんご存じのとおり昨年11月1日に、新紙幣が発行され話題となりました。

景気の回復（我々の業界では全く感じられませんが？）も徐々に見られるようです。

ところで、みなさんは預金封鎖つてご存じでしょうか。

毎日使っているお金が使えなくなってしまう、なんてことが

本当にあるのでしょうか？

福島隆彦さんの著書『預金封鎖』

によると、数年後に迫っているアメリカ発の世界大恐慌が起きた直後の、金融システムについてのシュミレーションは次のとおりです。

大恐慌が勃発したことに伴って緊急事態が生じる。その前にすでに新札はたっぷり印刷され準備されているので、十分な供給体制がとられる。そしてこの緊急事態発生と同時に、旧札を使用できる期間が、法律の力で厳しく限定される事態になる。

そうなれば、タンス預金は必

然的に炙り出されて、銀行や郵便局に持ち込まれざるを得ない。その場合10%から20%の強制課税が実施されるといふのだ。

かつてこの日本においても、昭和21年に『金融緊急措置令』なるものがあり、本当に預金が自由に下ろせなくなつて、その直後激しいインフレで、物価は何倍にも跳ね上がり旧紙幣や戦時公債が実質的に紙切れと化したというのです。

とりあえず、『新札切り替え時の50%課税』説は消えたので良かったですね？

(N・H)

かんとくさん

佐久間町役場 土木課

主査 高橋 巖

住民の目線で

現在私は、土木課の建築住宅係として町営住宅管理及び建築営繕業務に従事しております。佐久間町で生まれ育ち中学卒業後、下宿生活を送りながら浜松の高校を卒業し、民間の住宅会社に6年勤務した後、平成6年に採用されました。

以来建築の技術職員として、

町内の建築物全般の新築及び改修工事に携わることが出来ました。特に近年では、本来業務である公営住宅を始め、集会施設や消防庁舎など公共施設の企画立案の段階から参加

以来建築の技術職員として、

町内の建築物全般の新築及び改修工事に携わることが出来ました。特に近年では、本来業務である公営住宅を始め、集会施設や消防庁舎など公共施設の企画立案の段階から参加

させて頂き、大変貴重な体験をさせて頂いております。

公共施設の計画・監理を行う上で最も意識することは、

住民の目線で物事を捉えるという事です。誰もが利用する公共施設では、「住民が使いやすいために如何にあるべきか」をまず念頭において仕事をしています。

佐久間町も市町村合併という正念場を控え、我々公務員だけでなく、地域を支えて来られた建設業界の皆様におかれましても、益々競争が激化し大変な時代を迎える訳ですが、

常に根底には、この「住民本位」の精神をもつて、各々のお立場で難局を乗り越えるべく頑張っていきたいと思います。

公共工事品質確保法

四月から施行へ

最近のキーワード

公共工事での入札で、ダンピングや低価格受注による品質の低下が懸念されていますが、今年四月から「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が施行されることになりました。

この法律では、「価格と品質」に優れた調達の一助を求めて表示、技術力を重視した調達を行うための入札契約方法の選択や必要な人員体制の整備などを「発注者の責務」としています。特に地方公共団体では、技術力の評価のための「工事の検査基準」や「工事成績評価注体制での不十分さが指摘されています。

今回の法施行で、あらためて発注者には「価格と品質」、受注者にはそれに応えられる技術力が求められる訳ですが、中小建設業者にとって、ますます選別の時代を迎えたと云えます。



(筆者は右から2人目)

過ぎています。
私は春野町に住んで十九年になります。いつの頃からかあこがれていた「ミスはるの」、その一人に最近選ばれました。こ



「ミスはるの」がんばってます

春野町 田村純花さん

思います。もしイベント等で見かける事がありましたら、気軽に声を掛けて下さい。また皆さんも自然あふれる春野町へ心と体を癒しに、ぜひ足を運んでみて

を張って進んでいきたいと思えます。これからの出会いを楽しみにしながら、今の私にできる精一杯の事に挑戦していきます。

春野町役場企画課の臨時職員として勤め始めて半年が経ちました。すべてが初めての経験で学ぶ事が多く、職場の皆様には一つ一つ教えていただきながら

これから一年間、町内外のイベントに参加しそのPR役を務める事になりました。春野町民の一人として恥じぬよう、春野の魅力を私らしくアピールしたいと

して下さい。新しい発見があるかもしれません。人と人との出会いは偶然です。願ってもないチャンスに最初は戸惑いましたが、今は堂々と胸

My Family

春野建設事業(協)総務課

栗沢幸宏

私の家族は、妻、子供二人(長男小学一年、長女幼稚園年中)、父、母、祖母、私の弟の八人家族です。子供二人がいたずらばかりなので、家の中はいつもにぎやかです。私は結婚して八年が過ぎ、時のたつのはどんどん早くなるなあ、と感じるこの頃、



少ない休日の中で、なるべく一緒に何かをしたり、子供時代にしか出来ない色々な経験をさせたりして、有意義に過ごす事が出来る様に心掛けてやりたいです。普段の何気ない日常生活の中でも、子供達から見ると、大人の

子供達と過ごす時間大切に

大事にしたいと思っている事は、「家族と過ごす時間」です。特に子供達が成長する大切な時期を迎え、日々の暮らしの中や、

立場から見るとでは物事のとらえ方や、考え方に違い分と違いがあるのに気付く時があります。その時、大人達は、すぐ簡

単に、あたり前の考えや、やり方を押しつけてしまいがちですが、たまには、子供の立場で一緒に物事を考えてあげる、心の余裕をもって暮らしていきたいと思っています。



事務局だより

◎新潟県中越地震の被災地へ救援金

新潟県中越地震は、12月23日で発生から2カ月を迎える。死者40人、重軽傷者は約2860人になり、家屋被害は約51500棟。被害総額は3兆円を越していると言われています。天竜建設業協会として、会員皆様からお預り致しました浄財20万円を県協会にお届けしました。

県協会は、県下10

協会と県協会に事務局

局を置く関連団体の総意を加え

計300万円を12月18日、静岡

新聞本社へ寄託いたしました。

ご協力有がとうございました。

◎設計金額5千万円以上の電子

入札・電子納品の説明会

静岡県における電子入札は、

平成16年10月から1億円以上の

工事を対象に始まっています。

平成17年度から対象となる設

計金額5千万円以上の入札参加

者向けの説明会が開催されます

ので、必ず受講して下さい。

一、日時 平成17年1月27日(木)

二、場所 北遠総合庁舎3F会

議室

三、定員 70名(定員になり次

第締め切る。原則各社1名。)